



ナガクボケンジ、ステップス初個展。ナガクボは1958年東京生まれ、1981年広島大学卒業、1983年、東京学芸大学修士課程を修了している。現代日本美術展にも参加していたが、毎年行っている個展が重要なのであろう。

今回ナガクボは入り口に小品4点と時計のキット、画廊内にインスタレーションを展示した。作品はいずれも既成の時計モーターをナガクボが作成した箱に入れ、モーターの先にドリンク剤の蓋や植物を付けて回している。

ナガクボは「これまで箱を作ってきた」と私に語った。画廊主吉岡まさみによると、時計モーターにもナガクボは細工し、針の動きは通常ではないらしい。確かに総ての作品の動きは時計の針を想起させない不気味な間合いを持つ。

画廊内に設置されたインスタレーションで使用された時計モーターは1000個である。そこに普段見慣れた画廊の椅子を置くと、椅子はナガクボが持ち込んだように異なる存在と化し、扉から差し込む光は劇的な効果を発揮する。それに惑わされないように、あえて視点を上下逆さにしてみた。すると、ナガクボが考えていることは「時間」ではない、刻々と進む何物かであることが判明する。それを現象学的に捉えては面白くも何ともない。

進むことを動くと言い換えれば、動くこととは動かないことと等価であると定義すれば、ナガクボの作品は微動だにしないことが明らかとなる。動いているのは我々だ。その我々すらも、ナガクボの作品内ではその概念が消滅する。

